

大豆イソフラボン

SOY ISOFLAVONES

カチプファティマエキス

KACIP FATIMAH EXTRACT



●大豆イソフラボンとは

更年期障害とは、ホルモンバランスの乱れに伴う身体的・精神的不調のことで、女性の場合はホルモンの分泌が急激に変調する閉経前後の10年くらいに多く現れます。その症状は、多汗、腹部膨満感、頭痛、不眠、食欲不振、憂うつ感、不安感などで、全身に現れ、その原因はエストロゲンの低下にともなうホルモンバランスの乱れと考えられています。

大豆(学名: *Glycine max*)は、エンドウ豆やピーナッツ、クローバーなどと同じマメ科に属します。マメ科植物は、有用な栄養素が多く含まれていることでも知られており、その中で最も注目されているものがイソフラボンです。ゲニステインやダイゼインなどの大豆イソフラボンが、更年期障害の症状を軽減することが期待されています。



●大豆イソフラボンについての研究

いくつかの臨床試験において、大豆イソフラボンが更年期障害の症状である、ほてりなどを軽減させるという結果が報告されています。更年期障害に悩む多くの女性が大豆イソフラボンの摂取によって、不調が緩和されたという結果が出ています¹⁻⁴⁾。

大豆イソフラボンが、脂質状態と更年期障害の症状(主に物忘れ、憂うつ感、緊張感、ほてり、不眠など)にどのような影響を与えるかを明らかにした最新の研究で、13mgのゲニステインと、4.12mgのダイゼインを含む大豆イソフラボンを3ヶ月間摂取した場合、症状が有意に軽減したとの結果が報告されています。さらに、コレステロール・トリグリセリド値にも低下がみられたと報告されています⁵⁾。

●バイオアクティブズの大豆イソフラボン

バイオアクティブズジャパン社がお届けする大豆イソフラボンは、インド産の非遺伝子組換え大豆から抽出したエキスで、アグリコン20%、40%で規格しています。インドでは食品に対する放射線照射は禁止されており、安全で高品質な大豆イソフラボンの提供が可能です。

参考文献

- 1) Albertazzi et al. (1998) *Obstetrics & Gynecology* 91(1):6-11
- 2) Scambia et al. (2000) *Menopause* 7(2):105-11
- 3) Han et al. (2002) *Obstetrics & Gynecology* 99(3):389-94
- 4) Faure et al. (2002) *Menopause* 9(5):329-34
- 5) Hanachi et al. (2008) *Journal of Biological Sciences* 8(4):789-793

●カチプファティマとは

カチプファティマ(「ファティマ女史のハサミ」の意)は学名 *Labisia pumila* という低い草本植物です。インドシナ半島、マレーシア全域、スマトラ島、ジャワ島、ボルネオ島の熱帯雨林で見られる、ヤブコウジ科のほふく茎の植物です。



マレーの伝統では、出産の1-2か月前に根の煎じ汁か植物全体を妊婦に与えると、安産になると信じられています。また伝統的に弛緩した子宮や膈を引き締めると考えられ、出産後にもよく使用されています。他にも、月経痛をやわらげるとされ、月経困難症にも利用されています⁶⁾。その他の民俗学的な用途は腹部の張り・赤痢・淋病・リウマチや骨の病気の治療などがあります⁷⁾。

●カチプファティマについての研究

カチプファティマの水抽出物が、閉経後の女性の体を与える影響を観察するために行われた最新の実験では、卵巣を摘出したマウスに、1日あたり10mg/kg、20mg/kg、50mg/kgそれぞれのカチプファティマ抽出物を30日間摂取させたところ、摂取量に依存してレプチン・レジスチンの分泌が調整されたという結果がでています。また、脂肪組織でのアディポカインの発現を調節することによって体重の増加を抑える働きがあることも明らかにされました⁸⁾。これらの結果により、カチプファティマ抽出物が閉経により引き起こされる肥満や糖尿病などのリスクを軽減する可能性があると考えられます。

●バイオアクティブズのカチプファティマ

バイオアクティブズジャパン社がお届けするカチプファティマエキスは、インドネシアで収穫されたカチプファティマの葉を現地の製造会社にて水抽出(4:1)したものを輸入しています。有効成分の研究はまだ始まったばかりで、特に規格できる成分は見つかっていません。

参考文献

- 6) Zaizuhana et al. (2006) *Tropical Biomedicine* 23(2):214-219
- 7) Jamia et al. (2003) *Journal Sains Kesihatan Malaysia* 1:53-60
- 8) Mansor Fazliana et al. (2009) *Maturitas* 62 95(1):91-97



BIO ACTIVES JAPAN CORPORATION

バイオ アクティブズ ジャパン株式会社

〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20-9F

TEL 03-5981-0601 FAX 03-5981-0602

E-mail: info@bioactivesjapan.com <http://www.bioactives.co.jp/>